

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

府人勤どおり一時金(ボーナス)、給料を4月に遡って引上げ

2024年度から会計年度任用職員に勤勉手当支給、子育て部分休暇の対象となる子を小学校6年生まで拡大

2023府労組連秋季年末闘争

10月31日と11月9日、府労組連(大阪府関連労働組合連合会)は秋季年末要求の実現を求めて府当局との団体交渉をおこないました。

9日、総務部長は府労組連に対し、秋季年末要求に対する最終回答をおこないました。

全ての労働者の賃上げを

大阪府人事委員会勧告(以下、府人勧)では、職員給与は、民間給与より4.491円下回っているとし、月例給(一時金(ボーナス)ともに引上げるプラス勧告でしたが、引上げ額は非常に少なく、昨今の物価上昇



からみても生活改善にはつながらない内容のもので、とりくみとなりました。今回の交渉で、府労組連は、府人勧どおりの引上げ額では、中堅・ベテラン職員の生活改善につながらず、モチベーションの維持もできなくなると指摘し、現場の実態をもとに追及し、引上げ額の上積みや休暇制度の拡充などつよく求めました。

ねばり強い運動の到達
総務部長から示された最終回答では「人事委員会勧告の取扱いについては、勧告どおり実施」とし、
①給料表を2023年4月1日から引上げ
②期末・勤勉手当を2023年4月1日から年間0.1月分引上げ、年間4.5月分に改定
③2024年4月1日から、在宅勤務等手当を新設
④会計年度任用職員の報酬及び期末手当は、常勤職員に準じ2023年4月1日から改定
⑤会計年度任用職員に対し、2024年度から勤勉手当を支給するとの回答がありました。
今回の回答は、職場から寄せられた切実な要求から考えれば、たいへん大きな不満がある回答ですが、この間の府労組連の要求を二部前進させることができました。
教職員の増員、深刻な長時間労働の解消を
11月9日の人事局長との団体交渉では、特に支援学校の深刻な実態を訴え、教職員の増員はもとより、欠員の補充、「前倒し任用」の拡大についてつよく求めました。
これに対し、当局は「指摘の点は受け止める。(教職員の前倒し任用は)国の通知を踏まえて検討する」など、問題意識については共有するものの具体的な方策を示すには至りませんでした。休暇制度の拡充についても求めましたが、「国の制度」を理由に困難との回答でした。
大障教は、引き続き大教組・府労組連に結集し、すべての労働者の賃上げをめざして全力を尽くします。

【今季の主な最終回答】

○府人事委員会勧告どおり実施

【2023年4月に遡って実施するもの】

- ・給料表引上げ
(行政職初任給：高卒14,000円、大卒13,000円、若年層に重点を置きつつ引上げ、概ね30歳台後半以降は一律500円)
- ・一時金(ボーナス)を年間0.1月分引上げ(年間4.5月)
(再任用職員2.35月)引き上げ分は、期末・勤勉手当に均等配分
- ・会計年度任用職員の報酬と期末手当を常勤職員に準じて引上げ

※差額支給の時期は、11月府議会での条例議決後に示す

【2024年4月より実施するもの】

- ・会計年度任用職員に勤勉手当支給
- ・在宅勤務等手当の新設
(通勤手当の所要の措置)

○その他

- (いずれも2024年4月より実施)
- ・子育て部分休暇の対象となる子を小学校6年生まで拡大
- ・子育て中の職員等の通勤手当の認定基準緩和

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の

つよし

小学5年生の息子は、今「バスケットボール」熱に感染中だ。寝ても覚めてもバスケット。縁あって4年時にミニバスに出会い、友だちと一緒にプレイする楽しさに目覚めたようだ。運動を始める契機になればと思っていたが、経験0の息子のバスケットがこれほど高まるとは親としても嬉しい誤算である。

息子は、(親に似て?) 優しさゆえに無意識に気遣いをして疲れてしまう性格。加えて、何事にも自信が持てず、失敗が怖くて自分から積極的に行動することが難しい繊細な面を持っている。その息子が1年の3学期、新型コロナウイルス感染症の流行により生活が突如一変。マスク生活をはじめ、友だちとの距離感等コロナ禍で過す学校生活の中で、目に見えないしんどさを抱えて1年半ほど学校に通い辛い期間があった。

その日常に陽を射してくれたのが、「バスケットボール」だ。バスケットに出会い、友だちとのふれあいを通して、息子の中に再び元気が芽生え、「休んだらバスケットができてへんから!」と足が向きにくかった学校に4年時より自力で登校できるようになった。「ここからバスケット漬けの日々がスタート。試合に出れば負けてを繰り返し、初心者から努力を重ねて半年でレギュラーの座を争奪することができた。

先日開催された市の公式戦で、前評判を覆して強敵に競り勝ち、初の3位に入賞することができた。努力が実り結果に結びつく初めての経験に、チームメイトと抱き合い涙する息子の姿に逞しさを感じた。「夢中」が与えるパワーはまさに無限だ。息子の目標は、河村勇輝選手。数年後のW杯で活躍する息子の姿を夢見て、今からワクワクが止まらない。

被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を



8月7日、8日に長崎で開催されました(台風の影響で2日間に短縮)。大障教から4人が参加しました。参加者の感想を掲載します。

同僚の先生方に誘っていただき、はじめて原水爆禁止世界大会に参加しました。ロシアによるウクライナ侵攻は、なぜとまらないのか。平和な世界を築くために何をすればいいのでしょうか。一人でぼんやり思うだけの毎日ですが、今回平和に向けてのたゆまぬ努力と活動をされている方々の生のお話を伺う機会をいただけたこと、ありがとうございます。

被爆者の方々が高齢になられても「自分の使命」と核兵器の恐ろしさを訴え、また、本当に若い方々も核兵器廃絶に向けて声をあげ、つながり、広げておられる。自分もこれからは情勢のことよく勉強して、できることがあれば動かないといけななと感じました。分科会では「大軍拡と平和・くらし」について学びました。今、本当にきな臭い大変な状況にあるのだなと怖くなりましたが、その中で憲法9条のすばらしさも改めて理解できました。防衛費でなく医療、福祉、教育にお金をかけて国民のくらしを守ってほしいことを、とにかく訴えていかなければいけない。今の政治をとにかく変えていかなければいけないことを痛感しました。意見交換の中で、憲法の前文を大切にしたいと大阪の方がおっしゃっていました。その意味を勉強したいです。

また、お話の中で紹介された菅原文太さん(昭和の俳優さん)の言葉「政治の役割は二つ。一つは国民を飢えさせないこと、安全な食べものを食べさせること。もう一つは絶対に戦争をしないこと」が、心に残りました。

(佐野支援学校 鶴見与志美)

「空が雷を集めたように光った」「男女の区別がつかない負傷者がうつつむくと大量のガラス片が落ちてきた」「神社の手水舎に水を求めて死んでいった人々が折り重なっていた」「長崎出身というだけで結婚を認めてもらえなかった」「孫の肺が5分の1の大きさで生まれ、3日後に死亡した」「被爆体験を話してから不眠症に苦しんでいる」2023年原水爆禁止世界大会に参加して、78年を経た長崎を訪れたことで知った事実がそこにはあった。被爆の影響は、現在にまで続いていて、一生逃れることはできない。

被爆者の平均年齢は今年で85歳になった。私は小学生の時の広島への修学旅行で被爆者の方の体験を聞いた。今後、子どもたちが被爆者の方の体験を直接聞くことはできなくなるだろう。そこで、課題になるのが被爆体験の「継承」である。長崎原爆資料館では、原爆の熱線や爆風、放射線といった物理的な被害で語られることの多い被爆の事実を、被爆前の人々の日常の写真を通して、被爆の実相を「自分ごと」として捉えてもらう企画展が開催されていた。一族の集合写真や浦上天主堂を背景に撮影された野球大会の集合写真、被爆前に綴った日記などが展示され、その一つひとつにそれぞれの人々の生き抜いた物語が感じられた。尊い日常を送っていた人々の人として生きる権利は、原爆によって奪われたのである。

2023年5月被爆地広島で開催されたサミットでは、核抑止力を肯定する広島ビジョンが採択された。九州・沖縄の自衛隊基地の増強も続いている。終わりの見えないロシアとウクライナの戦争。このような時代にこそ、現地を訪れて追体験することに意義がある。追体験という言葉が辞書で引くと、「他人の体験を、作品などを通して自分の体験として生き生きと、とらえること」と記されていた。つまり、「自分ごと」として捉えることである。長崎の街は坂が多く、歴史的に海外との交流が盛んな街である。その美しい街の所々に被爆の遺構が残っている。爆風で吹き飛ばされて一本柱で建ち続ける鳥居や丘の上から川底に突き落とされた約50トンの鐘楼など、生々しく被爆の実相を伝えている。被爆体験を直接聞くことができなくなる時は、確実に近づいてきているが、長崎を訪れることで被爆を追体験することはできる。被爆の恐ろしさを「自分ごと」として体感すれば、長崎が最後の被爆地になることを切に願うはずだ。平和な未来に向けて、世界大会に参加して学んだことを、私も「継承」していく一人でありたいと思う。

(摂津支援学校 奥田 優一)

初めて訪れた長崎原爆資料館で、原爆投下直後の生き地獄を表した絵、焼野原に転がる遺体や被爆者の方々の焼けただれた火傷痕の写真に、つい目をそむけそうになりました。でも「目をそらさないでください。どうか目をそらさないで」と、被爆者の方々の声にはとさせられました。思い出したくもない記憶、見られたくない自分の姿を、想像を絶する覚悟で訴える人たちの思いを、正面から受け取り、伝承しなければなりません。

世界大会では、核に溢れ、戦争に向かう現状を再確認することができました。暴力で叶えられる変化に、なにかいいことはありません。攻められたらどうするかではなく、攻められる前にどう平和的運動をするかだ、という対話の大切さを改めて感じました。

それから、自分事として想像し続けること。目の前にうつるのは、どこか遠い国での話ではない、日本のこと、私たちのくらしにつながることで、私のことです。ヒロシマ、ナガサキの惨禍を二度と繰り返さないために、唯一の戦争被爆国・日本に住む一人の人間として、平和について考え、輪を広げ、できることから前進していこうと思えます。(佐野支援学校 北坂 彩華)

原水爆禁止2023世界大会〜長崎〜



みんなで行こう!



第23回全国障害児学級・学校 学習交流集会in愛知

2024年1月6日(土)〜7日(日)

6日午後 全体会 (オンライン併用)

7日午前 てんこ盛り講座・文化バザール

午後 旬の実践分科会・基礎講座 (一部オンライン併用)



昨年初めて学習交流集会に参加しました。「クラスも子どもたちも自分も、明るく元気に頑張りたいけれど、どうしたらいいのだろう、、、」日々の実践や教育現場に悩む私に、先輩先生と一緒に勉強しよう!と誘ってくれたことがきっかけでした。

学習会では、障害児教育に携わる人みんなで考えたい実践へのはげましがたくさん詰まっています。終わる頃には「子どもたちに早く会いたい」気持ちで溢れている自分がいました。「また明日からも頑張ろう!」そんな気持ちにさせてくれる学習交流集会♪是非みなさんも一緒に参加しましょう(^)/ (佐野支援学校 小坂和美)